

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-93222

(43) 公開日 平成4年(1992)8月13日

(51) Int. Cl.	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 60 N 2/42		7214-3K		
2/18		7214-3K		
B 60 R 22/26		7912-9D		

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

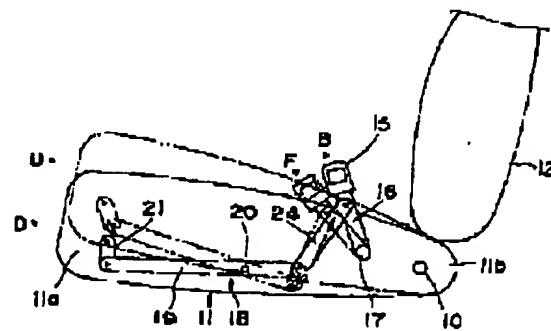
(21) 出願番号	実願平2-105988	(71) 出願人	000109738 デルタ工業株式会社 広島県安芸郡府中町新地1番14号
(22) 出願日	平成2年(1990)12月28日	(72) 考案者	中平 宏 広島県安芸郡府中町新地1番14号 デルタ工業株式会社内
		(74) 代理人	弁護士 麻野 義夫

(54) 【考案の名称】 自動車用シートの緊急昇降装置

(57) 【要約】

【目的】 自動車用シートにおいて、衝突等の緊急時に、シートベルトに代わって、着座者を前方移動させるべくする。

【構成】 アッパーレールのブラケットでシートクッションを、後部を中心に前部を上下揺動自在に支持し、常時は、このシートクッションの前部を下降位置に保持して、車体に衝撃が作用し、着座者がシートベルトを前方へ引っ張ることにより、バックルが所定角以上で前揺動したときに、リンク機構でシートクッションの前部を急上昇させる。これにより、シートクッションの前部が持ち上がり、着座者が前方移動しにくくなって、シートベルトが着座者の首に引っ掛かるという危険がなくなる。



(2)

実開平4-93222

1

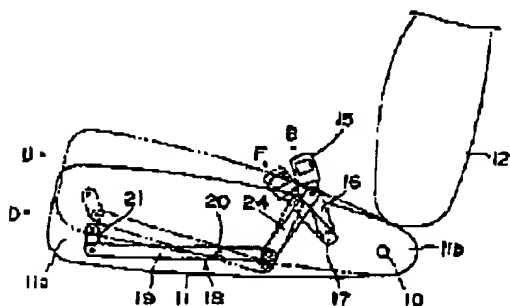
【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】シートクッションの後部に支軸が取付けられ、この支軸がアッパーレールに取付けたブラケットで支持されて、シートクッションが後部を中心にして前部が上下揺動自在に支持され、上記ブラケットに、シートベルトのバックルが前後揺動自在に支持されるとともに、このバックルとシートクッションの前部とを連結して、バックルが所定角以上で前揺動したときにシートクッションの前部を上昇させるリンク機構が設けられていることを特徴とする自動車用シートの緊急昇降装置。

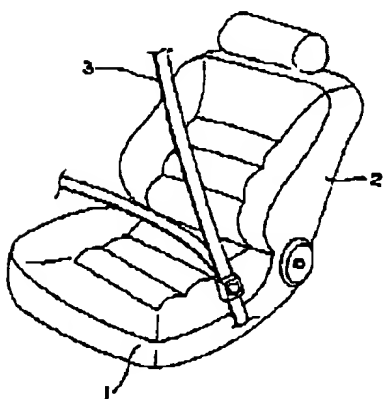
【図面の簡単な説明】

【図1】本考案にかかる緊急昇降装置を備えた自動車用

【図1】



【図3】



2

シートの側面図である。

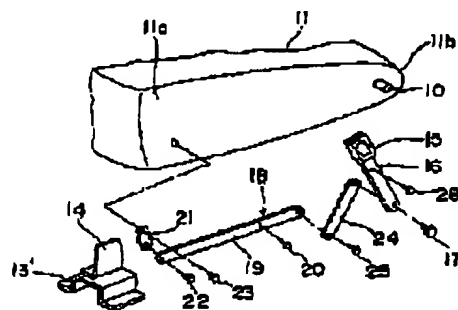
【図2】図1の装置の分解斜視図である。

【図3】従来の自動車用シートの斜視図である。

【符号の説明】

- 10 支軸
- 11 シートクッション
- 11a 前部
- 11b 後部
- 13 アッパーレール
- 14 ブラケット
- 15 バックル
- 18 リンク機構

【図2】



実開平4-93222

## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、衝突等の緊急時に、シートベルトに代わって、着座者を前方移動せにくくするための自動車用シートの緊急昇降装置に関する。

【0002】

## 【従来の技術】

従来、図3に示すように、自動車用シートはシートクッション1とシートバック2とで構成されている。そして、自動車用シートには、衝突等の緊急時に着座者を前方移動させないように保持するためのシートベルト3が配置されている。

【0003】

## 【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、シートバック2を後方に大きく傾けて着座しているような場合、衝突時にシートベルト3が効きにくいと、着座者がシートクッション1に沿って前方移動する、つまりシートベルト3の下をくぐり抜けるように前方移動するので、シートベルト3が着座者の首に引っ掛かって危険であるという問題があった。

【0004】

そこで本考案は、衝突等の緊急時に、シートベルトに代わって、着座者を前方移動せにくくするための自動車用シートの緊急昇降装置を提供することを目的とする。

【0005】

## 【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本考案は、シートクッションの後部に支軸が取付けられ、この支軸がアッパーレールに取付けたブラケットで支持されて、シートクッションが後部を中心にして前部が上下揺動自在に支持され、上記ブラケットに、シートベルトのバックルが前後揺動自在に支持されるとともに、このバックルとシートクッションの前部とを連結して、バックルが所定角以上で前揺動したときにシートクッションの前部を上昇させるリンク機構が設けられていることを

実開平4-93222

特徴とする。

【0006】

【考案の効果】

本考案は、アッパーレールのブラケットでシートクッションを、このを中心に前部を上下揺動自在に支持し、常時は、このシートクッションの前部を下降位置に保持して、車体に衝撃が作用し、着座者がシートベルトを前方へ引っ張ることによりバックルが所定角以上で前揺動したときに、リンク機構でシートクッションの前部を急上昇させるようにしたものである。したがって、シートクッションの前部が持ち上がり、着座者が前方移動しにくくなって、シートベルトが着座者の首に引っ掛かるという危険がなくなる。

【0007】

【実施例】

以下、本考案の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

【0008】

図1及び図2に示すように、自動車用シートは、シートクッション11とシートバック12とで構成されている。このシートクッション11の両側位置に、シートスライド装置のアッパーレール13が配置されている。このアッパーレール13の上面には、シートクッション11の側面に対向するように立上げるブラケット14が取付けられている。

【0009】

上記シートクッション11の側面後部11bには側方へ突出する支軸10が取付けられ、上記ブラケット14の後部には、この支軸10を回動可能に支持する支持孔（図示しない）が設けられている。この支軸10により、シートクッション11が後部11bを中心に前部11aが上下揺動自在に支持されることになる。

【0010】

上記ブラケット14の後部には、シートベルトのタングプレートを保止するバックル15のブラケット16がピン17で前後揺動自在に支持されている。このバックル15のブラケット16とシートクッション11の前部11aとがリンク機構18で連結されている。

実開平4-93222

## 【0011】

このリンク機構18は、上記ブラケット14に沿って前後方向に伸長する長寸の第1リンク19を有し、この第1リンク19の後寄りが上記ブラケット14にピン20で上下揺動自在に枢着されている。この第1リンク19の前部には第2リンク21の下部がピン22で枢着され、この第2リンク22の上部がシートクッション11の側面前部11aにピン23で枢着される。また、上記第1リンク19の後部には第3リンク24の下部がピン25で枢着され、この第3リンク24の上部が上記バックル15のブラケット16の上部にピン26で枢着されている。

## 【0012】

上記構成であれば、常時はバックル15が後揺動位置Bにあり、このバックル15のブラケット16で上方へ引かれた第3リンク24で第1リンク19が左旋されて第2リンク21が下方へ引かれているので、シートクッション11の前部11aは下降位置Dに保持されている。

## 【0013】

そして、衝突等により着座者がシートベルトを前方へ引っ張ると、バックル15がこれに追従して所定角以上で前揺動位置Fに前揺動する。これにより、バックル15のブラケット16で第3リンク24が下方へ押されて第1リンク19が右旋され、第3リンク24が上方へ押されるので、シートクッション11の前部11aが第3リンク24により上昇位置Uに急上昇して（二点鎖線参照）、前部11aが持ち上がった状態となり、この前部11aが邪魔して着座者が前方移動しにくくなる。この結果、着座者がシートベルトの下をくぐり抜けことができなくなるので、シートベルトが着座者の首に引っ掛かる危険がなくなる。なお、衝撃力がなくなり、バックル15が後揺動位置Bに後揺動すると、各リンク24, 19, 21が実線の位置に復帰するので、シートクッション11の前部11aは再び下降位置Dに保持される。